令和元年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

海津市地域公共交通会議

平成２５年１２月５日設置

フィーダー系統（デマンド交通）
平成３０年６月２６日　確保維持計画策定
※令和元年度　調査事業（計画策定事業）含む

地域の特性・概要・公共交通の取り組みの背景

○市内の公共交通は、養老鉄道、名阪近鉄バス、市コミュニティバス、タクシーで構成。コミュニティバスは、従来の8路線から定時定路線3路線＋デマンド交通に再構築（平成27年10月～）

○養老線鉄道事業再構築実施計画の認定
平成２９年１２月２１日認可
期間：平成３０年１月１日～令和９年３月３１日

○養老線地域公共交通網形成計画策定
平成２９年１０月２４日作成
期間：平成２９年度～令和８年度（１０年）

■現況ネットワーク

■デマンド交通
（ﾌｨｰﾀﾞｰ系統）

現・海津市地域公共交通網形成計画の概要

将来像

『まちづくりと連携して日常生活に必要な公共交通を確保することにより、定住促進・地域の活性化を目指す』

基本方針

①養老鉄道・名阪近鉄バスのサービスの充実

②養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

③朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成

④地域ごとに海津市コミュニティバス利用者数の目標値を定め、達成度を評価

計画期間

平成２７年度～平成３１年度（令和元年度）

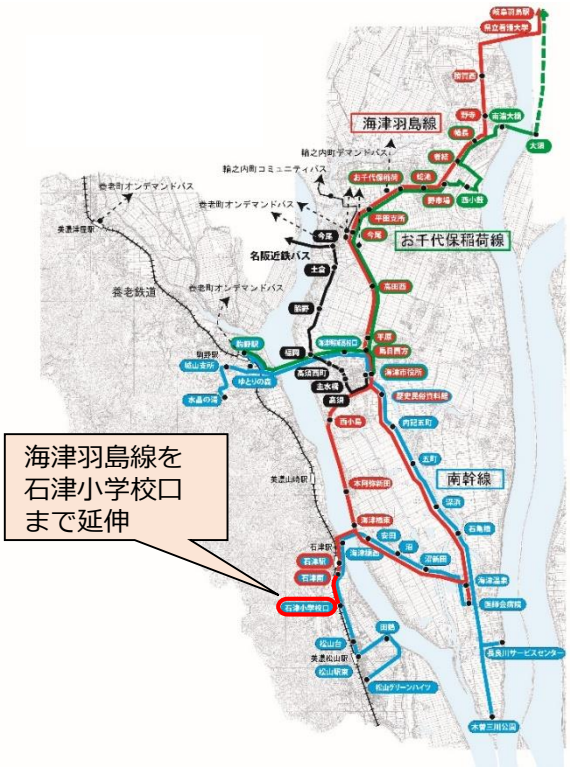
サービス改善事業

①利用実態、利用者ニーズに対応してルート、ダイヤの改正

- 海津羽島線を延伸、南幹線の系統変更で通勤需要に対応
  （平成31年4月から運行開始、右図参照）

②自治会要望への対応

- デマンド交通停留所の移設要望への対応



利用促進事業

①海津市公共交通利用ガイドの作成（平成31年4月改正）

- 全戸配布(11,600部)、 駅や公共施設等でも配布(下図参照)
- 市内全ての公共交通(鉄道・路線バス)の時刻表の掲載
- 今後も改正に合わせて継続して発行予定

②経路検索サイトへのデータ提供

- NAVITIMEへコミュニティバスの情報（時刻表やバス停位置）を提供し、スマートフォン等の情報機器から乗換検索サービスに対応
- 今後はデータのGTFS化を推進し、情報提供を拡大

その他

①関係部署の公共交通会議への参画及び専門部会の開催

- 福祉、観光、教育及び財政関係の部長を公共交通会議の委員とし、網形成計画改定に向けた検討を行う専門部会を開催

次期・海津市地域公共交通網形成計画策定に向けた取り組み（令和元年度策定予定）

市民に対する意識調査

①市民アンケート（15歳以上の市民3,000人対象）

- ●日常生活の生活行動、各種公共交通の利用状況、公共交通機関の満足度等
- ●有効回答数：1,033票（回答率34.4%）

- ●日常生活において、市外を目的地とすることが多い
  ⇒通勤通学先：大垣市、通院先：大垣市(大垣市民病院)、買物先：養老町・輪之内町等
- ●デマンド交通を利用する条件として、約２割強が「予約が取れれば」と回答

公共交通利用者に対する意識調査

①定時定路線バス利用者アンケート（全路線の利用者を対象）

- ●乗降停留所、居住地、利用目的、バス停までの手段等
- ●有効回答数：796票

②デマンド交通利用者アンケート

- ●デマンド交通の満足度、サービス内容変更時の対応等
- ●有効回答数：46票

③養老鉄道利用者ヒアリング
（通学の高校生を除く、駒野駅・石津駅利用者を対象）

- ●居住地、目的地、駅への交通手段、利用目的等
- ●有効回答数：363票

- ●名阪近鉄バス停留所への手段が徒歩以外の割合が約６割弱
- ●デマンド交通の運行エリアが限定となる場合は、約８割弱が引き続き利用と回答
- ●駒野駅・石津駅利用者の約3割弱が揖斐川対岸(旧平田町・旧海津町)を居住地・目的地とする利用で、その場合の交通手段は過半数がクルマの利用

次期・海津市地域公共交通網形成計画策定に向けた取り組み（令和元年度策定予定）

住民意見交換会

実施時期：令和元年8月22日～9月10日
実施個所：地域住民向け10箇所及び全市民向け1箇所

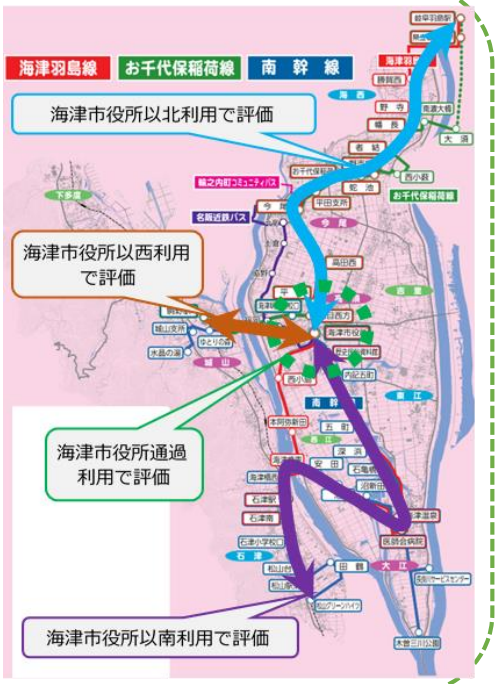
【主として以下のような意見有】

- 先行予約の定常利用者により、デマンドの予約が取りづらい
- 住民主導で移動手段確保も考えられる
- 三重県や愛知県方面への移動手段を確保してほしい(特に市南部・東部地区)

コミュニティバス乗降データの分析

- 定時定路線バスの再構築の基礎資料とするため、コミュニティバス(定時定路線)の乗降データを区間単位、時間帯単位で詳細に分析

- 海津市役所を境に、輸送量に大きな違いがあり
  - 【市役所以北】夜間便を除けば3.0人/便以上の乗車
  - 【市役所以南】37便中26便が2.0人/便未満の乗車
- 平日朝夕は海津明誠高校への通学、その他時間帯は岐阜羽島駅～お千代保稲荷・今尾・市役所の輸送量が多い
- 南幹線として運行の市役所以西～市役所以南の通過利用は少ない（平日朝夕を除き、全便合計で4.0人/日未満）



現・海津市地域公共交通網形成計画における数値目標

①基本方針１　養老鉄道・名阪近鉄バスのサービスの充実

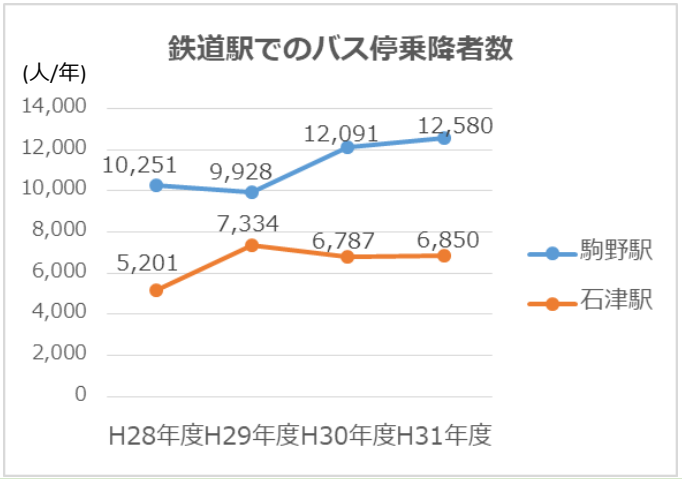
②基本方針２　養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

	目標(H31年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	評価
養老鉄道 ※1)（市内乗降者数）	2,700人/日	2,584人/日	3,180人/日	3,163人/日	3,220人/日	3,066人/日	達成
美濃松山	—	712人/日	905人/日	990人/日	974人/日	939人/日	—
石津★ ※2)	490人/日	483人/日	637人/日	503人/日	464人/日	495人/日	達成
美濃山崎	—	156人/日	173人/日	173人/日	165人/日	174人/日	—
駒野★ ※2)	900人/日	892人/日	1,122人/日	1,148人/日	1,275人/日	1,143人/日	達成
美濃津屋	—	341人/日	343人/日	349人/日	342人/日	315人/日	—
名阪近鉄バス ※1)（市内乗降者数）	70人/日	—	—	98/日	84/日	109/日	達成

※1)　数値は平日のみの集計　　※2)★はコミュニティバス接続駅

目標達成状況に関する考察

- 年による増減はあるものの、目標は全て達成
- 鉄道駅でのバス停乗降者数も平成28年度と比べ増加しており、駒野駅及び石津駅の交通結節点として機能していると言える
- 駒野駅の利用者増加は、中学校統廃合による通学利用の増加によるところが大きい



現・海津市地域公共交通網形成計画における数値目標

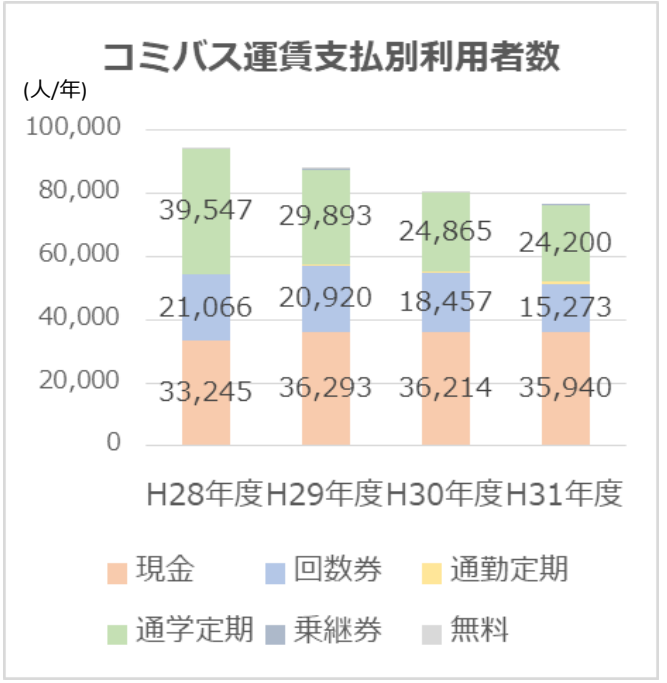
③基本方針３　朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成

	目標（H31年度）	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	評価
コミバス利用者数	113,000人	136,481人	113,117人	106,872人	100,055人	96,604人	未達成
定時定路線	—	136,481人	94,516人	87,872人	80,297人	76,414人	—
デマンド交通	—	—	18,601人	19,000人	19,758人	20,190人	—

※）　再編実施は平成28年度当初（平成27年10月～）

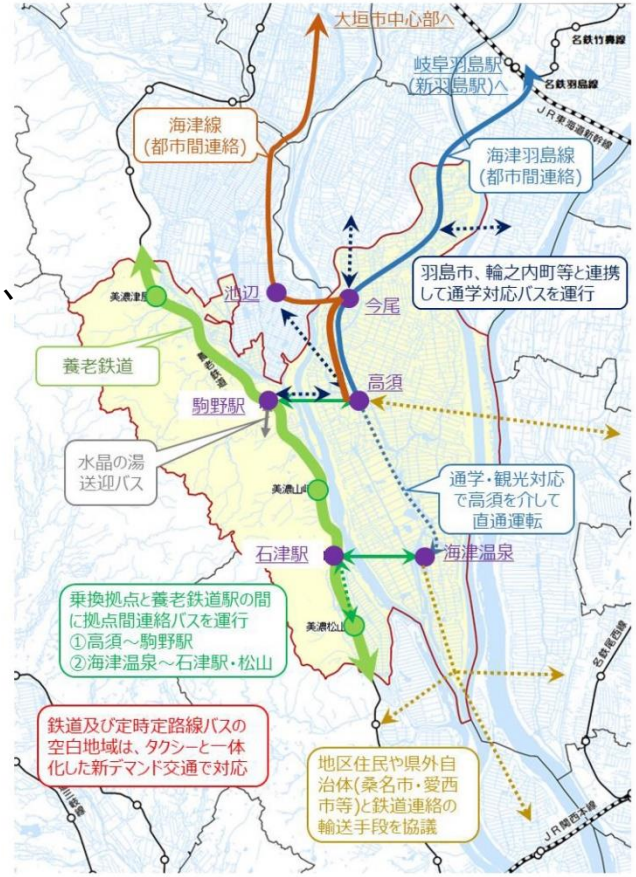
目標達成状況に関する考察

- 利用者数は減少傾向で目標は未達成であり、特に定時定路線の減少が大きい
- 主たる原因として、通学の流動人口の変化や年次進行による高校生等の減少による利用者減がある（H31年度はH28年度の約61%）
- 一方で、現金利用は若干の微増減はあるが、ほぼ横ばいである
- デマンド交通の利用者は、増加傾向であり、高齢者等の利用が増えたことが考えられる
- 平成30年度から平成31年度の減少は、海津温泉休業の影響が考えられる



全体的な課題と対応方針

- 平日朝夕と平日昼間・休日の利用実態の違いや海津市役所を境とした輸送量の大きな違いを踏まえ、名阪近鉄バスを含めた海津市全体の定時定路線バスの公共交通網の再構築を実施
- 高校生の通学利用の減少に対して、高校進学前からの情報提供、若年層向けの出前講座を実施し、公共交通の認知度向上を図る
- 定期以外の利用者の安定的な確保のため、お千代保稲荷等への観光需要の喚起を図るとともに、経路検索サービスのさらなる拡充を軸にした情報提供を図る
- 地域住民と協働して積極的に移動手段の確保に参画するための仕組みを構築する
- 次期計画期間にて現行の運行サービス・目標設定を見直す
  ①福祉部局との課題共有・連携した運行サービスの見直し
  ②路線網全体を意識した目標を設定



『海津市が目指す公共交通網』

次期・海津市地域公共交通網形成計画

(令和元年度策定予定)

将来像　『みんなでつくる、便利な公共交通網』

計画期間　令和２年度～令和８年度

基本方針

①持続可能性を考慮した公共交通網の構築
②関係者の協働による公共交通網の構築
③住民が主体的に参画するための仕組みの構築

中部様式2

令和元年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

海津市地域公共交通会議

平成２５年１２月５日設置

フィーダー系統（デマンド交通）
平成３０年６月２６日　確保維持計画策定
※令和元年度　調査事業（計画策定事業）含む

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
①通学以外の需要動向も把握されるとともに、利用しやすい環境づくりを推進されるよう期待	調査事業において、公共交通の多面的な利用実態の分析を行い、次期計画（案）に路線網の再構築の実施を位置付け	需要に応じた路線へ再構築するとともに出前講座等を通した若年層への公共交通認知度の向上を図る 定期以外の利用者の安定的な確保のため、隣接の羽島市とも連携してお千代保稲荷等の観光需要の喚起を図る
②交通圏を跨ぐ移動需要もある地域であることから広域的な移動にも対応した交通ネットワークのあり方についても検討いただくことを期待	岐阜県内他市町との連携に加え、愛知県・三重県他市への連携のための協議を次期計画（案）に位置付け	広域的な移動に対応した交通ネットワークのあり方については、養老線交通圏地域公共交通網形成計画と整合を図りつつ、隣接の羽島市・輪之内町・養老町とも連携しながら、地域住民と協働して仕組みを検討していく

利用環境の改善（駅前整備）

●駒野駅にサイクルアンドライド用自転車駐輪場を整備
市内５駅の駅前駐輪場の整備完了

石津駅バス停（H31年3月完成）

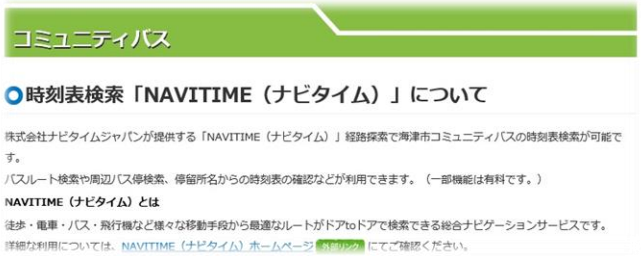
●石津駅バス停を整備

●美濃津屋駅周辺のパークアンドライド用駐車場から駅までの道順を案内する看板を設置

参考：美濃松山駅のパーク＆ライドの状況

経路検索サイトの導入

●スマートフォンやパソコン等の情報機器を利用した
乗換案内を提供（データのGTFS化により今後拡大予定）



関係部署との連携強化・専門部会の開催

●利用者の高齢化等、交通部局だけでは解決し難い課題の共有や解決に向けた専門部会の開催
・第１回　令和元年１０月３０日
・第２回　令和元年１２月２６日

次期・海津市地域公共交通網形成計画に反映